

a 学校教育目標	かしこく なかよく げんきよく	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション(自校の使命)】 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン(自校の将来像)】 児童が満足する学校、保護者が安心する学校、地域が誇りに思う学校、そして教職員が生きて甲斐や行き甲斐を感じる学校。
----------	-----------------	----------------------	---

	評価計画				自己評価					改善策	学校関係者評価					
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価		k 結果と課題の分析	改善策	評価			
						h 達成値	h 達成値						イ	ロ	ハ	
信頼される学校	児童が満足する学校 保護者が安心する学校 教職員が生きて甲斐や行き甲斐を感じる学校	めざす学校像	【田野浦小スタンダードの徹底と定着】 ・学びのスタンダード ・教務部が進行管理 ・教務部が改善策に取り組む ・くらしのスタンダード ・生徒指導部が進行管理 ・生徒指導部が改善策に取り組む ・教えるのスタンダード ・教務部が授業研究を通して取り組む	【児童アンケートの肯定的評価】 ①「田野浦小学校に通ってよかったと思いますか。」 【保護者アンケートの肯定的評価】 ②「学校は安心して子どもを通わせることができる教育を行っている。」 【教職員アンケートの肯定的評価】 ③「現在、生きて甲斐や行き甲斐を感じることができている。」	90%	100%	96%	B	B	・3項目中2項目で達成できた。 ①90% ②97% ③86% ・健康状況に留意しながら、一人一人のよさを育てる教育を継続して行うことができた。 ・教職員のモチベーションが低下している場合がある。	・コロナ禍での生活スタイルを維持しながら、児童の自己肯定感を高める声かけを継続する。 ・学年主任を中心に、学級実態や職員員の体調を把握し、組織の一員としてのフォロー体制を確立する。	2			・適正に評価されている。 ・授業での姿は、多少気になる児童がいるが、全体的によくなってきている。 ・学校評価の項目を焦点化し、学校として取り組む内容を明確にしていくとよいのではないかと。	
確かな学力	学習のかまへ 児童と先生の肯定的評価 話す・聞く 児童と先生の肯定的評価 読む・書く 児童と先生の肯定的評価	学びのスタンダード	【PDCAで進行管理】 ・アンケート調査(スモール・ステップ) 7月 1学期の成果確認 12月 2学期の成果確認 3月 3学期の成果確認 ・教務部が進行管理 ・児童アンケート実施、結果分析 ・課題を焦点化し改善策を作成 ・教務部が改善策に取り組む(結果責任)	1 学習の構え 【児童アンケートの肯定的評価】 ①「休み時間に学習用具を準備していますか。」 ②「正しい姿勢(グー・ベタ・ピン)で学習していますか。」 【教職員アンケートの肯定的評価】 ③「学びのスタンダード」の徹底・定着に向けて指導している。 ④「チャイムの合図で授業を始めている。」 ⑤統一した号令で授業を始めている。 2 話す・聞く 【児童アンケートの肯定的評価】 ⑥「理由をつけて発言していますか。」 ⑦「相手を見て話したり聞いたりしていますか。」 ⑧「指名されたら「はい。」と返事をしていますか。」 3 書く 【児童アンケートの肯定的評価】 ⑨「教科書をゆっくりはっきり読んでいますか。」 ⑩「下敷きを使って書いていますか。」	90%	91%	91%	B	B	・10項目中6項目で達成できた。 ①93% ⑥79% ②76% ⑦92% ③100% ⑧95% ④94% ⑨90% ⑤100% ⑩89% ・「理由を付けて発言」について、課題を共有し、学年毎に取り組む実践し、毎月振り返りを行った。その結果児童の肯定的評価が5%上がった。しかし、まだ目標値を11%下回っている。 ・「正しい姿勢」については、声掛けをすると正そうとする態度が見られるようになってきた。	・学年主任を中心として、「正しい姿勢」についての指導項目を統一し、継続して指導をする。合言葉「グー・ベタ・ピン」を活用し、児童に「正しい姿勢」について意識させる。 ・児童の困り感(理由を付けて発言できない)に気付くために、自分達の授業を振り返り、改善点について話し合う時間を設ける。その際、何をどのように指導すれば「理由を付けて発言」できるのか、具体的な指導内容について検討を行い、実践する。	2			・適正に評価されている。 ・田野浦小学校の児童に生きる力を身に付けるために、「何を」「どのように」授業に取り入れていくのか明確にしていく必要がある。 ・学習規律を低学年のうちにしっかりと身に付ける必要があると感じる。「グー・ベタ・ピン」の姿勢やしたじきを使うことなどの躰をきちんと行っていたきたい。 ・児童の将来を考えると、高校入試での自己PRを記入できる力を身に付けるために、小学校段階ではどのようなことを学ぶべきかを考えるべきである。 ・授業を参観したときに、田野浦小学校として取り組んでいる内容が、全ての授業で見えてくることが望ましい。	
	学力向上 学力調査 学力調査40%未満児童3割未満	学力向上	【学力フォローアップ事業の活用】 ○個の学力・意欲を伸ばす支援計画 7月 1学期の成果確認 12月 2学期の成果確認 3月 3学期の成果確認	学力調査40%未満の児童数の減少	100%	85%	100%	B	A	・学力調査未実施のため、算数科単元末テストにおいて正答率40%未満(低学年は70%未満)の児童の割合と人数で評価を行った。 ・単元テスト結果 「知識・技能」2.7% 13名(1学期比-1.5%) 「思考力・判断力・表現力」8.6%、40名(1学期比+2.2%) 前年度比1.8%(7名)増	・基礎的・基本的な内容の定着を目指した授業改善を行ったこと。知識・技能は向上した。 ・「めあて」と「まとめ」の整合性を意識した授業改善を行う。また、児童の思考を深める発問や授業展開の工夫を行っている。	2				
豊かな心	くらしのスタンダード ・チャイムが鳴ったらパッと遊びをやめて運動場を走って帰る ・はきものをそろえている ・SDNのあいさつができる ・だまって掃除をしている 児童と先生の肯定的評価	豊かな心	【PDCAで進行管理】 ・アンケート調査(スモール・ステップ) 7月 2学期の成果確認 1月 3学期の成果確認 ・生徒指導部が進行管理 ・児童アンケート実施、結果分析 ・課題を焦点化し改善策を作成 ・生徒指導部が改善策に取り組む	【児童アンケートの肯定的自己評価】 ①「チャイムが鳴ったらパッと遊びをやめて運動場を走って帰っていますか。」 ②「はきものをそろえていますか。」 ③「SDNのあいさつができていますか。」 ④「だまって掃除をしていますか。」 【教職員アンケートの肯定的評価】 ⑤「くらしのスタンダードの徹底・定着に向けて指導している。」 ⑥教職員として率先して「くらしのスタンダード」を率先して遂行している。	85%	100%	100%	A	A	・4項目すべてで達成できた。 ①97% ⑤90% ②92% ⑥95% ③87% ④89% ・中間評価と比較し、②から④については、1~2ポイント下がっている。このことは教職員の徹底と定着が継続して図られていないと捉える。 ・くらしのスタンダードの徹底・定着に向け、引き続き継続して指導および率先して遂行していく。	・児童会役員が週に3日「あいさつ運動」を行うとともに、各学級に出席して「SDNのあいさつ」の呼びかけを行う取組を継続していく。 ・あいさつする児童を全体や学級内で評価していく。具体的な取組については検討を行い実践する。 ・取組をマンネリ化させないとともに、当たり前でできていることを教職員が肯定的に評価する。	2			・適正に評価されている。	
健やかな体	体力を向上させる ・体力・運動能力調査で全国・県平均を上回る種目数	健やかな体	・保健体育部が進行管理 ・体育科の授業改善 ・体育朝会等の指導 ・児童会活動の工夫 ・指導方法、測定方法等の研修 ・保健体育部が体力づくりに取り組む	・体力・運動能力調査で全国・県平均を上回る種目数	70%	未実施のため	未実施のため	未実施のため			・体力テスト未実施のため、評価ができなかった。 ・1年を通して、コロナウィルス感染予防対策のため、道具や運動形態に制限がかかっていたが、ランニングやサーキットトレーニングなどを活用し、体力の向上に努めることができた。	・3密を避けながらできる運動をもとに授業を構成し、児童の体力を高めていく。 ・数値目標をもって運動に取り組ませるために、前年度の体力テストの課題のある種目を実施する。その種目に関するトレーニングを体育科授業や家庭学習に取り入れ、体力向上を図っていく。	2			・適正に評価されている。
働き方改革	超過勤務時間の削減を実現 ○超過勤務時間の月時間が45時間を下回る【H31 100%】	働き方改革	○管理職が働きかけと勤務時間管理 ・勤務時間管理システムの活用 校内衛生委員会の定例化 ○働き方と働きかたへの意識改革 ・超過勤務の仕事内容、持ち帰り仕事内容を把握し、削減に向け取り組む	・超過勤務時間が月45時間以下 ・在校時間一覧表 参照	100%	92%	90%	B	B	・超過勤務が45時間以内の人数的に増加している。 ・学年で協力して、業務を計画的に行われている。	・学年主任を中心に、学年部で声をかけることや、時間を効率的に使えるように、業務の分担などを指導していく。 ・事務内容を精選し、教材等の共有化を図っていく。	2			・適正に評価されている。 ・有効的にICTの活用を行うための研修などを勤務時間内に適切に設定する必要がある。	

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価 評価】
A: 100≧(目標達成) B: 80≧(ほぼ達成) < 100
C: 60≧(もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

【i:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。